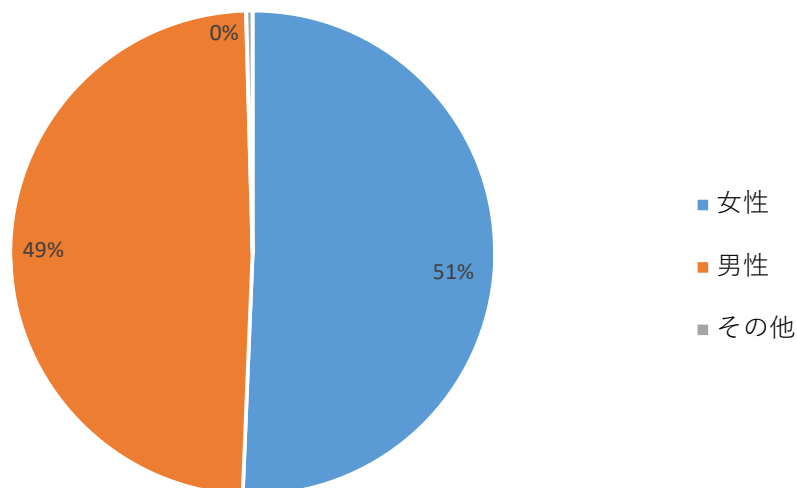


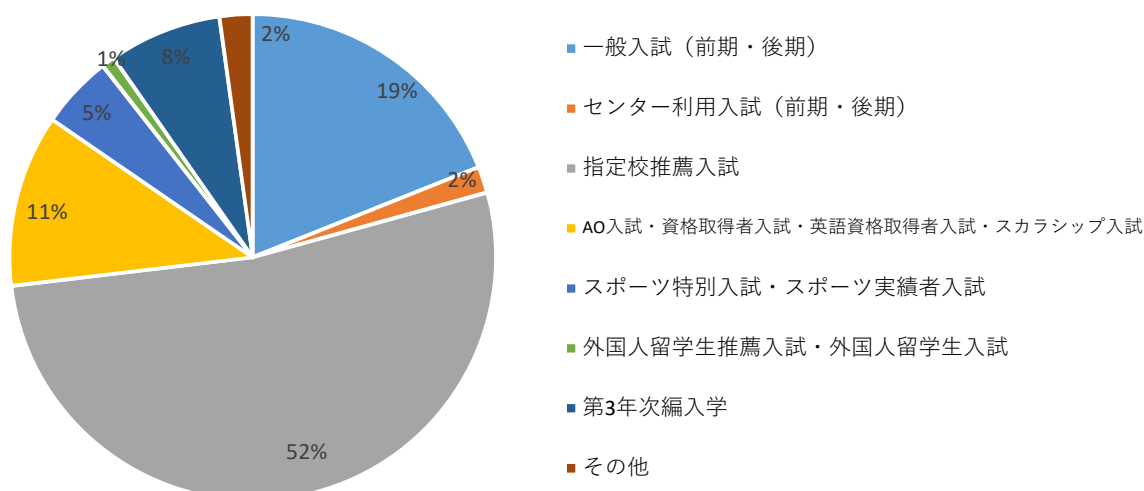
2022年度コミュニケーション学部卒業時アンケート

調査対象： 2022年9月卒業生 5名、2022年度3月卒業生 238名
 調査実施期間： 2022年9月1日～9月30日、2023年3月2日～3月31日
 回答数： 227件
 回答率： 93.4%

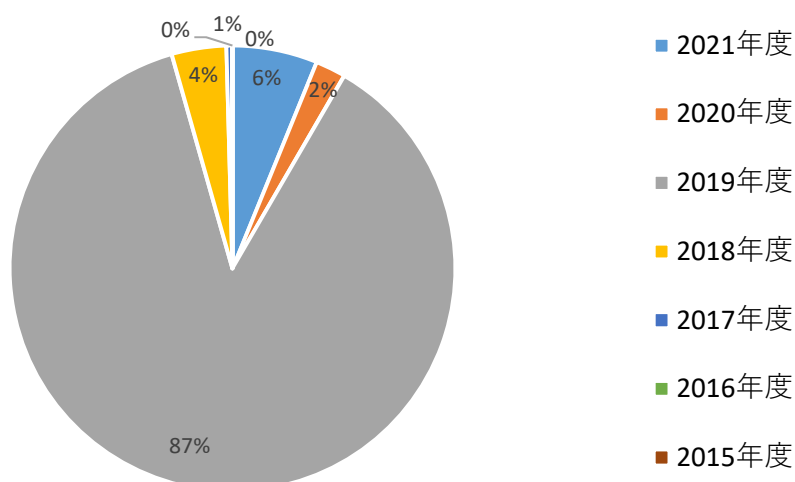
設問1 あなたの性別をお答えください。



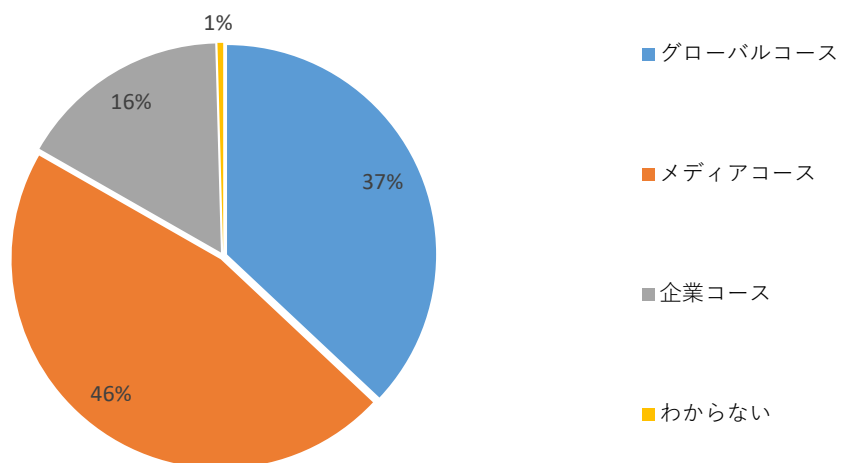
設問2 あなたはコミュニケーション学部にどのような試験制度で入学しましたか。



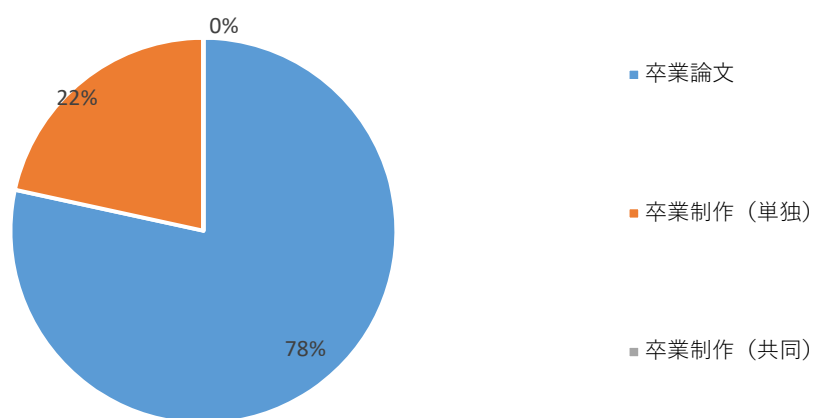
設問3 あなたの入学年度（編入学の方は編入学年度）はいつですか。



設問4 あなたは学部でどのコースに属していましたか。

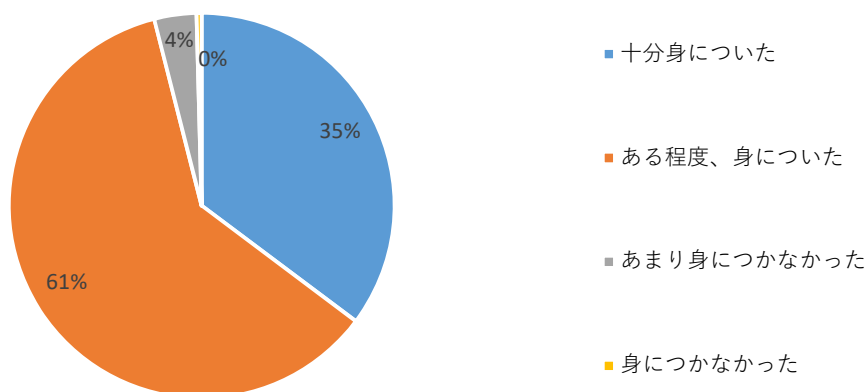


設問5 あなたは「卒業研究」をどの区分で提出しましたか。

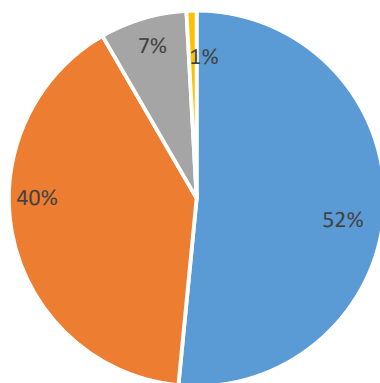


大学での学修を終えた現在のあなた自身の自己評価として、以下のそれぞれの項目についてもっともよくあてはまる選択肢を1つずつ選んでください。

設問6 「人間・社会・言語・自然」についての教養

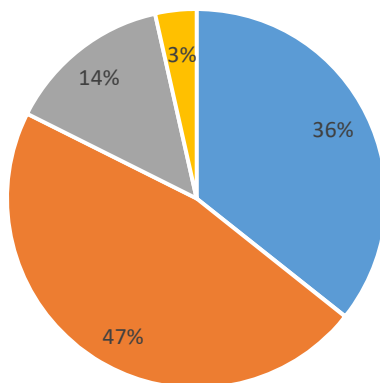


設問7 他者との対話力



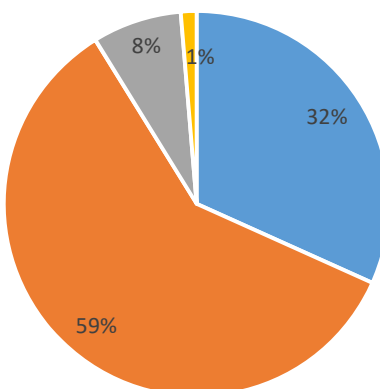
- 十分身についた
- ある程度、身についた
- あまり身につかなかった
- 身につかなかった

設問8 他文化との対話力



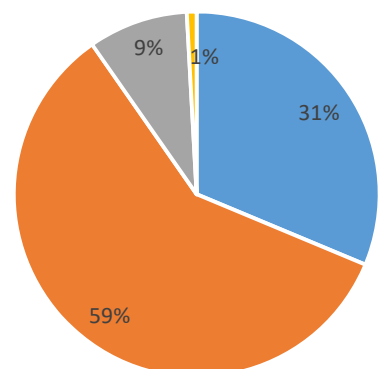
- 十分身についた
- ある程度、身についた
- あまり身につかなかった
- 身につかなかった

設問9 メディアに関する知識



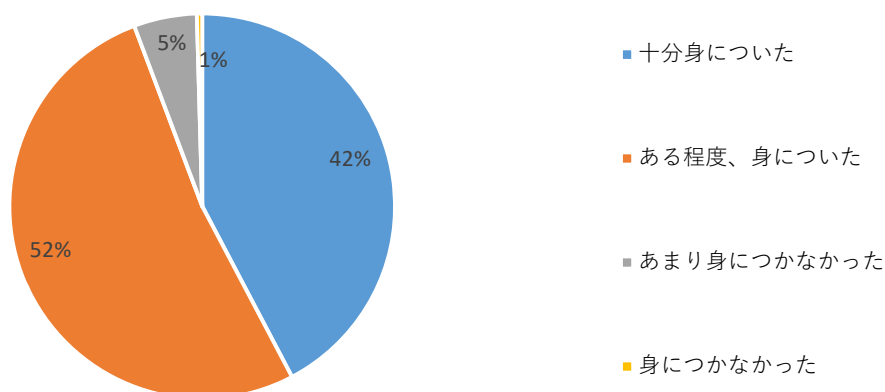
- 十分身についた
- ある程度、身についた
- あまり身につかなかった
- 身につかなかった

設問10 情報を分析・評価する能力

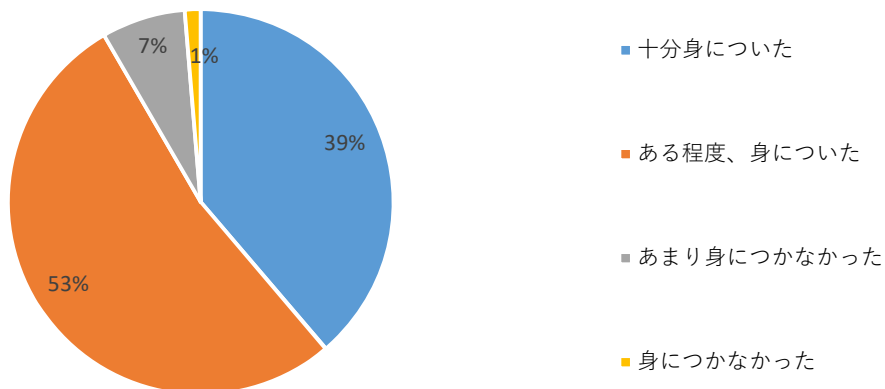


- 十分身についた
- ある程度、身についた
- あまり身につかなかった
- 身につかなかった

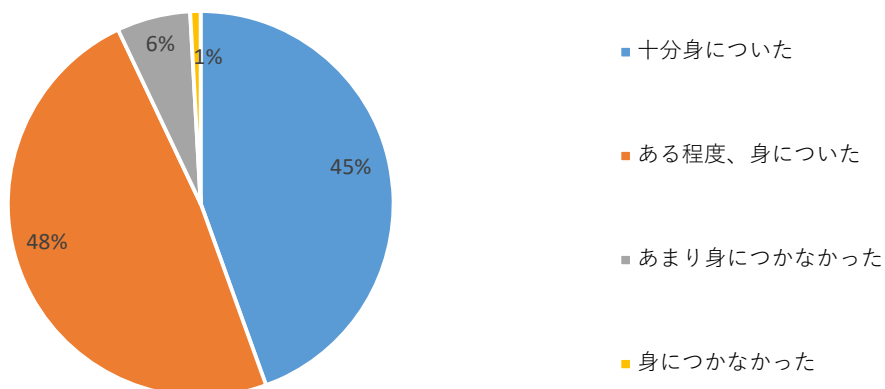
設問11 コミュニケーションに関わる事柄での問題を発見する能力



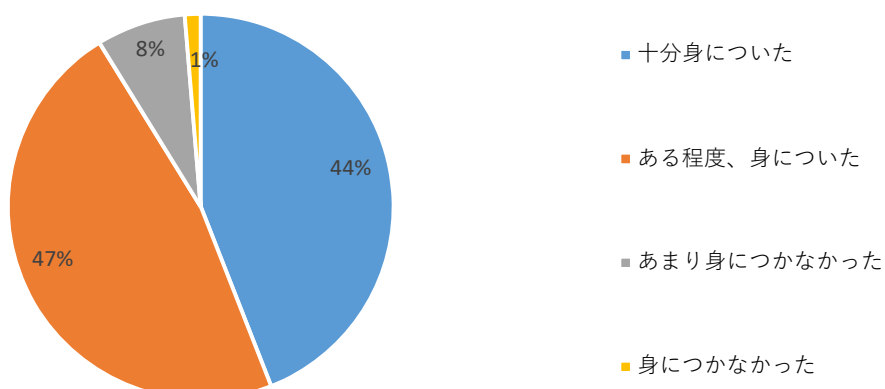
設問12 コミュニケーションに関わる事柄での問題を分析・解決する能力



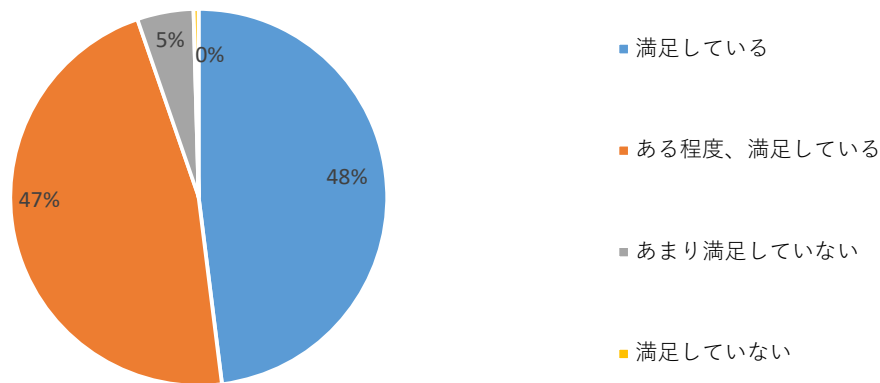
設問13 自分の考え・アイデアを表現する技能



設問14 自分の考え・アイデアを伝達していくコミュニケーション技能

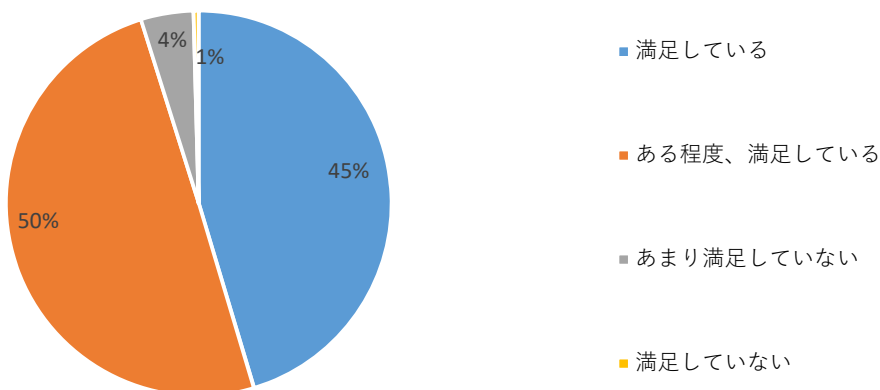


設問15 在学期間を振り返ってみて、
あなたはコミュニケーション学部での学修にどの程度満足していますか。

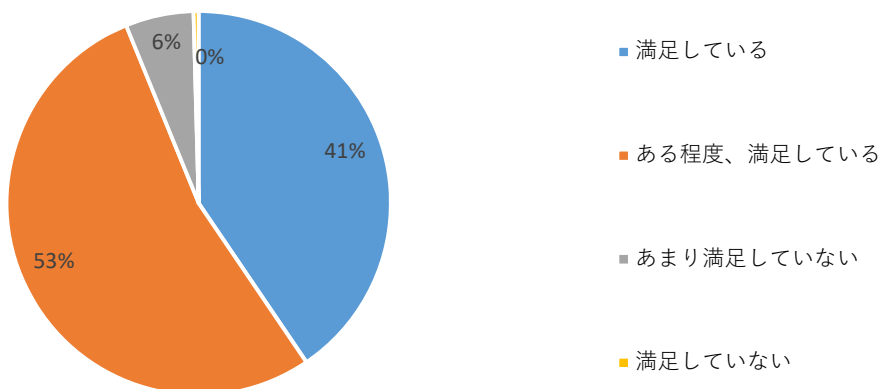


入学後の総合的な満足度として、以下のそれぞれの項目について
もっともよくあてはまる選択肢を1つずつ選んでください。

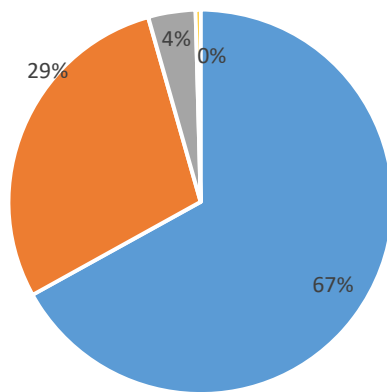
設問16 学部の専門分野〔講義科目〕に関わる教育



設問17 総合教育科目に関わる教育

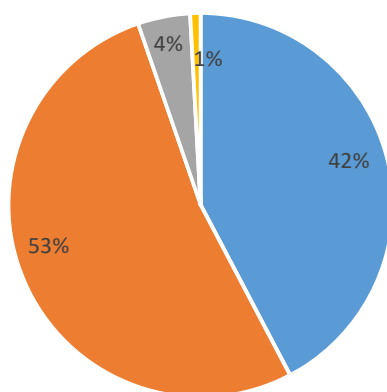


設問18 「演習」



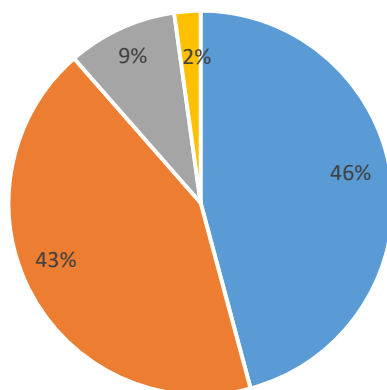
- 満足している
- ある程度、満足している
- あまり満足していない
- 満足していない

設問19 カリキュラム全般



- 満足している
- ある程度、満足している
- あまり満足していない
- 満足していない

設問20 就職活動支援



- 満足している
- ある程度、満足している
- あまり満足していない
- 満足していない

【分析編】

2022 年度卒業時アンケートは 2022 年度コミュニケーション学部卒業生を対象に、彼らが卒業時にどの程度自身の 4 年間の学修成果（成長実感）を認識しているかを明らかにすることを目的としたものである。このアンケートは 9 月卒業生に対して 2022 年 9 月 1 日～30 日、3 月卒業生に対して 2023 年 3 月 2 日～31 日の期間にオンラインで実施され、合計 227 名（9 月卒業生 4 名、3 月卒業生 223 名）からの回答を得た。これは卒業生全体の 93.4%（227／243）に相当する。調査項目は、学部のディプロマ・ポリシー（以下、DP）に沿った形で作成されている。

まず、DP1「コミュニケーションの前提となる人間・社会・言語・自然についての教養の涵養」に対応する評価項目が「人間・社会・言語・自然」についての教養である。教育課程上は、総合教育科目を中心に学修する内容である。「十分身についた」と回答した者が 35%、「ある程度、身についた」と回答した者が 61%であった。この 2 つを合計すると、ポジティブな自己評価を示した者が 96%と回答者の大多数を占めたといえる。

DP2「コミュニケーションの出発点としての身体性を踏まえた他者や他文化との対話力」に対応する評価項目が「他者との対話力」および「他文化との対話力」である。教育課程上は、基幹科目と展開科目の共通科目、グローバルコース科目およびワークショップ科目を中心に学修する内容である。「他者との対話力」については、「十分身についた」が 52%、「ある程度、身についた」が 40%と、この 2 つの選択肢を合計した肯定的自己評価は 92%と非常に高い割合であった。そして、「他文化との対話力」は「十分身についた」「ある程度、身についた」をあわせて 83%であった。この 2 点の相違は過年度にもみられたが、2021 年度卒業生ではそれぞれ 93%と 78%であったことから、2 点の差は縮まったといえる。

DP3「コミュニケーションを支えるメディアに関する知識と情報を分析・評価する能力」に対応する項目が「メディアに関する知識」「情報を分析・評価する能力」である。基幹科目と展開科目の共通科目、メディアコース科目および表現系ワークショップ科目を中心に学修する内容として教育課程上に位置づけられている。それぞれ肯定的回答（「十分身についた」「ある程度、身についた」の合計）が 91%（メディアに関する知識）、90%（情報を分析・評価する能力）であった。この数字を見る限り、多くの学生がこれらの修得を達成したという自己認識があったことが確認できる。

DP4「コミュニケーションに関わる事柄での問題を分析・解決する能力」に該当する項目が「コミュニケーションに関わる事柄での問題を発見する能力」「コミュニケーションに関わる事柄での問題を分析・解決する能力」である。教育課程上は基幹科目と展開科目の共通科目、3 つのコース科目、調査系ワークショップ科目を中心に学修する内容である。これらの 2 つの項目では肯定的回答がそれぞれ 94%（発見）、92%（分析・解決）であったことから、卒業生自身の自己評価でみてどちらも十分に高い達成度であったと判断できる。

DP5「自分の考え・アイデアを創造的に表現し、伝達していくコミュニケーション技能」に該当する項目が「自分の考え・アイデアを表現する技能」および「自分の考え・アイデアを伝達していくコミュニケーション技能」である。教育課程上は、基幹科目と展開科目の共通科目、企業コース科目、英語系・表現系ワークショップ科目、そして卒業研究を中心に学修する内容となっている。前者（表現する技能）の項目の肯定的回答は92%であった。また後者（伝達していくコミュニケーション技能）の項目の肯定的回答は91%であった。これらのことから、DP5についても十分達成できていたと卒業生が自己評価したと判断できるだろう。

また、入学後の総合的な満足度について、「学部の専門分野〔講義科目〕に関わる教育」「総合教育科目に関わる教育」「演習」「カリキュラム全般」「就職活動支援」の5項目を尋ねた。肯定的回答（「満足している」「ある程度、満足している」の合計）は「学部の専門分野〔講義科目〕に関わる教育」で95%、「総合教育科目に関わる教育」で94%、「演習」で96%、「カリキュラム全般」で94%、「就職活動支援」で89%であった。専門教育に対する満足度についてはどちらも95%（講義）、96%（演習）の肯定的回答が得られており、高い満足度が示されたといえるだろう。特に「演習」については「満足している」の回答の割合が67%と肯定的回答の約7割をしめており、過年度に引き続き高い満足度が得られていたと判断できる。

総括すると、過年度卒業生と同じく、2022年度コミュニケーション学部卒業生は、コミュニケーション学部のディプロマ・ポリシーを4年間で多くが達成したと自己評価していたといえるだろう。また、教育課程に対する満足度もいずれの点についてみても十分に高かったといえるだろう。

2022年度卒業生の多くは2年次以降をコロナ禍で過ごしたが、卒業時アンケートの結果からは過年度と大きな差はみられなかった。むしろ、DPにかかわる自己評価において、2021年度卒業生よりも肯定的回答の割合の高い項目が多く、入学後の総合的満足度ではいずれの項目でも2021年度に比べて肯定的回答の割合が高かった。このアンケートについては自己報告によるものであるため、これらの結果は卒業生の主観的認識に基づくものである点に注意は要するものの、コロナ禍であったことの問題は本アンケート結果からはみられなかったといえよう。